

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
 (当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 09 月 05 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	井上 漱太

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京丸の内国際フォーラム
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
キッズジャンボリー2017
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 8 月 14 日 ~ 平成 29 年 8 月 17 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>PWS 履修生によるアウトリーチ活動の一環として東京、丸の内国際フォーラムで開催されたキッズジャンボリーに参加した。多数の企業・団体が出展し子供達の夏休みを彩る企画である。私たちは「世界一周! どうぶつ調査隊!」と題して、様々な体験、会話を通して子供達に動物研究の世界を考えてもらうことを試みた。</p> <p>私は去年からこの企画に参加しており、今年で 2 回目だった。2 回目とはいえ、特段慣れてスムーズに会話を進めることができるというわけではなく、去年に引き続き学ぶことの多い企画だった。普段何気なく使用している単語、言葉を小学校低学年の子でも理解できるように言い換える、最低限のことは漏らさず、話が複雑にならないように気を使う等、一朝一夕に習得できるものではない。試行錯誤を繰り返しながら、自分でも徐々にスムーズに子供達を導けるようになったのではないかと実感した。</p> <p>今年は早い時期から何度も集まり企画をしていたこともあって、去年よりは非常に充実した内容になっていた。私は調査で日本を離れていたので企画からは携わることはできず、本番だけの参加であったが、工夫された企画の数々に驚かされた。</p> <p>以下、来年以降の課題である。私たちはワークシートを作成し、特に正解の決まっていない質問をいくつか用意した。自分で考え、私たちとの会話を通して、記入すれば良いというものだった。多くの子供達は親の方と一緒に来訪していた。ここで面白いと個人的に感じたことは、親の人たちは揃って子どもに向かって「あのお姉さんやお兄さんに“答え”を聞いてきてごらん」と口にしていたことだ。基本的に質問には正しい“答え”があり、それにきちんと答えれば良い、という考え方が根付いているのだと感じた。ここは学校ではないので、間違えて良い、会話から自分で考えよう、ということをもう少し伝えられればよかったと思った。また、参加する年齢層がかなり異なるので(特にこの年代は2-3歳の差が大きな能力差になる)、年齢に合わせた会話、課題を出すことが求められる。年々良いものになっているという意見もあるので、また来年も良いものを作ることができるように努力したい。</p>
 
キッズジャンボリー当日の様子。左は塗り絵ゾーン、右はタッチパネル、骨、糞ゾーン
6. その他 (特記事項など)
本出張を支援してくださいました PWS には感謝もうしあげます。また企画準備を進めていただいたみなさんにも重ねて感謝いたします。